

# 平塚市総合計画 生活快適・夢プラン ～これまでの振り返り～

## 1. 平塚市総合計画 生活快適・夢プランの振り返りにあたって

### (1) 振り返りについて

本市では、平成19年度に策定した「平塚市総合計画 生活快適・夢プラン」(以下、「現総合計画」と略)において、めざすべき将来像を「ひと まち 自然 生活快適都市 ひらつか」とし、市民と市が手を携え、創造力を発揮し、地域力・市民力を活かした持続可能なまちづくりを進めてきました

この度、次期総合計画を策定することに伴い、策定検討に際しての基本資料とすることを目的として、現総合計画の振り返りを行うこととします。

### (2) 基本計画の体系

現総合計画の基本計画は、5つの基本目標、15の達成方針、44の基本施策で構成されています。

基本目標	達成方針	基本施策
1【よろこびにあふれるひと】 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	1-①<人間力> 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	1. いのちを大切にする心もち、社会性や規範意識を身につける環境をつくる
		2. 平和・人権に関する意識啓発を推進する
		3. 男女共同参画意識を高める
		4. 子ども時代に生きる力を身につける環境をつくる
		5. 基礎的な学力を身につけ、個性を伸ばす教育を充実する
		6. 教育施設・機能を整備・充実する
	1-②<感性> 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	1. 生涯にわたる学習・スポーツ・レクリエーションを楽しむ環境を充実する
		2. 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する
		3. 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する
1-③<交流> ひと・文化の活発な交流が広がる環境をつくる	1. 学術・文化・スポーツなどを通じた市民の交流活動を推進する	
	2. 地域の文化をお互いに理解し、活発な交流を進める	
2【支え合うコミュニティ】 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	2-①<地域力> 地域組織や市民活動の力を育て、まちづくりに活かす	1. 多様な地域組織や市民活動を支援する
		2. 地域力を調整するコーディネーターが活躍できる環境を整える
		3. 地域社会で家庭や地域の子育てする力を高める
	2-②<市民力> 市民一人一人の主体的な参加により、地域で支え合う環境をつくる	1. 地域を支える活動に参加する意識を高める
		2. 一人一人が地域課題の解決に取り組むことができるしくみをつくる
		3. 環境に配慮した都市基盤整備を進める
2-③<健康・安心・福祉力> その人らしく安心できる生活を支援する	1. 総合的なサービスを展開する地域ケア体制を充実する	
	2. 多様な地域課題に的確かつ総合的に対応する地域密着のサービスを充実する	
3【やすらげる環境】 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	3-①<自然との共生> 四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	1. 自然を守るしくみづくりを進める
		2. 自然と親しめる場づくりを進める
	3-②<住みごこち> 人にやさしい居住空間をつくる	1. 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める
		2. 身近な生活環境を充実する
		3. 環境に配慮した都市基盤整備を進める
	3-③<循環型社会> 循環型社会をめざして環境負	1. 環境に配慮した事業活動・暮らしのしくみをつくる
		2. ごみの排出を抑制し、資源化を進める

(次ページへ続く)

	荷の少ない暮らし方を定着させる	3. 環境負荷の少ないエネルギー利用を進める
4 【地力を伸ばす産業】 活力とにぎわいに満ちたまち	4-①<持続可能> 産業の発展を持続させる	1. 産業の持続的な発展に向けて、基本的な理念と戦略を確立する 2. 産業の経営基盤を強化する 3. 世界の市場を視野に入れて、産業間の交流や産学公の連携を進める
	4-②<熟成> 市民の豊かな暮らしに貢献できる産業として成熟させる	1. 市民が身近に感じられ、生活に密着した産業を展開する 2. まちのにぎわいづくりに結びつく産業を展開する
	4-③<新しい芽> リーダー、後継者が育ち活躍できる環境をつくる	1. 新しい産業が芽生え、育つ環境づくりを進める 2. 新しい価値観や豊富な行動力をもった担い手が、継続的に育成されるしくみをつくる 3. 就業の場における処遇の公正化及び男女雇用機会の均等化並びに雇用の安定拡大を図る
5 【安全・快適なまち】 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	5-①<安全> 災害に強い安全なまちづくりを進める	1. 安全に対する意識を高める 2. 被害を最小限に抑える防災の環境を充実する 3. 迅速かつ的確な消防・水防と救急・救助、救援の体制を充実する
	5-②<まちの顔> 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	1. 人々が集まり、にぎわいと活気にあふれる街づくりを進める 2. 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する 3. 誰もが安心して、安全、快適に過ごせる環境づくりを進める
	5-③<利便性> 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	1. 安全で快適に利用できる公共施設の充実を図る 2. 市民ニーズに合った公共施設の適正な管理と運営を進める 3. まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める

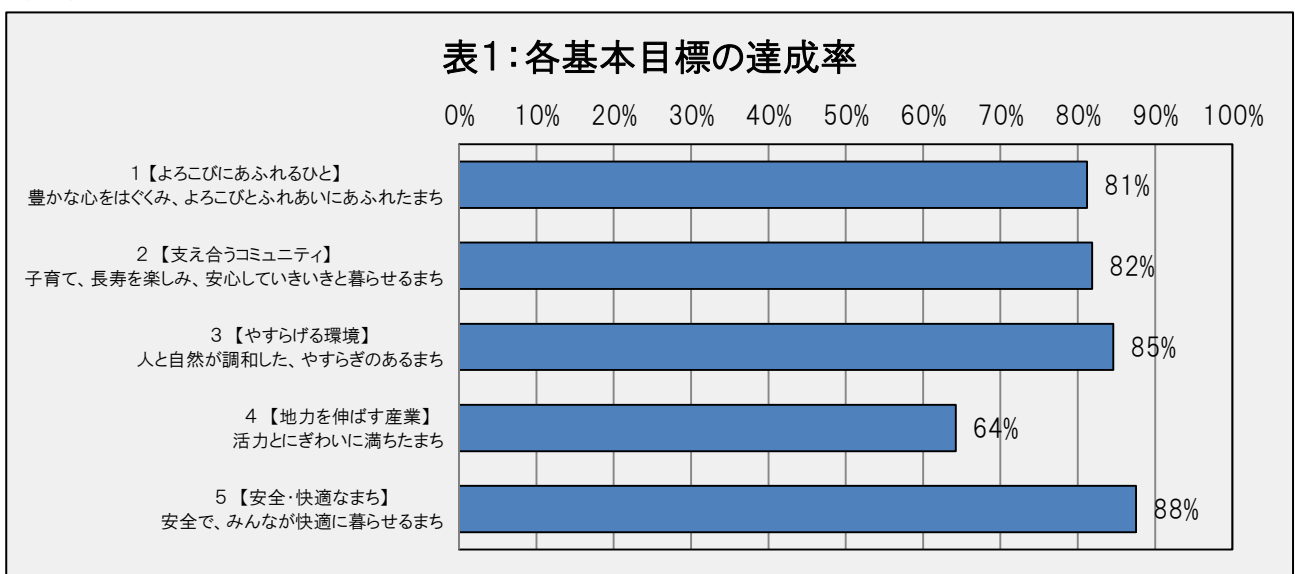
## 2. 現総合計画の達成率の評価

### (1) 現総合計画の達成率の評価方法について

基本計画では、市民と市の役割に基づいたまちづくりを評価するものとして、成果指標を位置付けています。各成果指標においては、10年後(平成28年度)の目標値が設定されており、平成28年度の実績値と比較して達成率の評価をすることとなりますが、現時点において平成28年度の実績値は存在しないため、ここでは平成28年度の目標値から平成26年度の目標値を案分して算出し、この目標値と平成26年度の実績値を比較して評価を行います。

また、市民の居留意向のほか、生活・まちづくりに対する満足度や重要度に対する意識を調査し、現総合計画に基づき実施している本市のまちづくりに対し、どう評価しているかを把握することを目的として実施している平成26年度の市民意識調査の結果からも、各基本目標についての考察を行います。

### (2) 全体の評価



基本目標1～5の平均達成率:約80%

#### ～まとめ～

基本目標1「豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれるまち」、基本目標2「子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち」、達成目標3「人と自然が調和した、やすらぎのあるまち」については、80%を超える達成率となっており、達成目標5「安全で、みんなが快適に暮らせるまち」については、90%に近い高い達成率となりました。

一方で、基本目標4「活力とにぎわいに満ちたまち」については、70%を下回る達成率であることや、達成方針の中には50%を下回るものもあるため、これらについては次期総合計画策定にあたっての課題として捉える必要があります。

これらの結果から、5つの基本目標の平均達成率は約80%となり、「ひと まち 自然 快適生活 都市 ひらつか」の実現に向けた取組みは、一定の成果が出ているものと考えられます。

### (3) 基本目標ごとの評価及び考察

#### ア. 基本目標1

## 基本目標1:平均達成率:約81%

※平均達成率は、P8,10,12の成果指標(計21項目)の平均値です。

#### ～考察～

達成方針1-①では、平和や人権、男女共同参画推進などの、「人間力」に係る事業を、達成方針1-②では、生涯学習や文化振興などの、「感性」に係る事業を、達成方針1-③では、国際交流や大学交流などの、「交流」に係る事業をそれぞれ実施しました。

これらの事業の実施に伴い、3つの達成方針の達成率については、いずれも70%以上という比較的バランスのとれた結果となっており、平均しても81%という高い達成率となっていることから、基本目標である「豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち」に向けて、成果が出ているものと考えています。

なお、市民意識調査では、回答者の世代や子どもの有無等に関わらず、子どもに関する分野の重要度が非常に高いとの結果になっていることから、未来を担う子供たちが学力の定着や豊かな人間性を育むことができる環境づくりが望まれていると考えられます。

#### イ. 基本目標2

## 基本目標2:平均達成率:約82%

※平均達成率は、P14,16,18の成果指標(計25項目)の平均値です。

#### ～考察～

達成方針2-①では、地域組織支援や地域子育て推進などの、「地域力」に係る事業を、達成方針2-②では、市民活動支援や地域福祉推進などの、「市民力」に係る事業を、達成方針2-③では、健康増進や防犯、介護予防などの、「健康・安心・福祉力」に係る事業をそれぞれ実施しました。

これらの事業の実施に伴い、達成率については平均して82%という高い結果となっていることから、基本目標である「子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち」に向けて、成果が出ているものと考えています。一方、達成方針2-①については達成率が65%と低かったため、今後は地域力を高める取組みが必要と考えられます。

なお、市民意識調査では、年代や性別に関わらず、各分野の重要度を評価する理由として、少子化や高齢者人口の増加が多く挙げられていることから、今後一層、少子化や高齢者人口の増加への対応が求められていると考えられます。

## ウ. 基本目標3

### 基本目標3:平均達成率:約85%

※平均達成率は、P20,22,24 の成果指標(計 19 項目)の平均値です。

#### ～考察～

達成方針3-①では、環境活動や里山保全などの、「自然との共生」に係る事業を、達成方針3-②では、自転車通行帯整備や公園整備などの、「住みごこち」に係る事業を、達成方針3-③では、環境事業センターの整備や新エネルギー普及推進などの、「循環型社会」に係る事業をそれぞれ実施しました。

これらの事業の実施に伴い、達成率については平均して85%、特に達成方針3-①については98%、3-③については93%と高い結果となっていることから、基本目標である「人と自然が調和した、やすらぎのあるまち」に向けて、成果が出ているものと考えております。一方で、達成方針3-②の達成率は64%と伸び悩んでいることから、今後は住みごこちを向上させる取組みが必要と考えられます。

なお、市民意識調査では、他の基本目標と比較して相対的に重要度が高く、満足度も高い分野となっていますが、開発により自然が減少することを危惧する意見もあります。

今後も平塚市の魅力としての自然を保ちつつ、環境に配慮したまちづくりに取り組む必要があります。

## エ. 基本目標4

### 基本目標4:平均達成率:約64%

※平均達成率は、P26,28,30 の成果指標(計 20 項目)の平均値です。

#### ～考察～

達成方針4-①では、企業立地促進や農業・漁業支援などの、「持続可能(産業の発展)」に係る事業を、達成方針4-②では、地場産業振興や農業理解促進などの、「熟成(産業の成熟)」に係る事業を、達成方針4-③では、起業家支援や後継者育成などの、「新しい芽(産業の担い手)」に係る事業をそれぞれ実施しました。

これらの事業の実施に伴い、達成率については平均して64%と、他の基本目標と比較すると低い結果となりましたが、達成方針4-①、4-②については、約70%の達成率となっていることから、基本目標である「活力とにぎわいに満ちたまち」に向けて、一定の成果は出ているものと考えております。一方で、達成方針4-③については45%という厳しい結果となっていることから、今後は産業の活性化に向けた取組みを、重点的に行う必要があると考えられます。

なお、市民意識調査においても、他の基本目標と比較すると相対的に満足度が低い傾向にあり、特に商業の充実や駅周辺のにぎわいに関する項目の満足度が顕著に低いことから、駅周辺の魅力を高め、にぎわいを感じられるまちづくりが期待されていると考えられます。

## 基本目標5:平均達成率:約88%

※平均達成率は、P32,34,36の成果指標(計22項目)の平均値です。

### ～考察～

達成方針5-①では、災害対策や防犯対策などの、「安全」に係る事業を、達成方針5-②では、放置自転車対策や駅前広場バリアフリー化などの、「まちの顔」に係る事業を、達成方針5-③では、バス利用促進や公共施設整備などの、「利便性」に係る事業をそれぞれ実施しました。

これらの事業の実施に伴い、達成率については平均して88%、特に達成方針5-①については目標値を超える結果となっていることから、基本目標である「安全で、みんなが快適に暮らせるまち」に向けて、成果が出ているものと考えられます。

なお、市民意識調査では、他の基本目標と比較して相対的に重要度が高く、特に、災害や日常生活の安全に関する項目の重要度が高くなっています。また、満足度については、ほぼすべての項目で十分な満足度が得られていないことから、今後も安心安全な生活の確保に向けた施策の展開が求められていると考えられます。

## (4) 達成方針ごとの振り返り

### ア. 成果指標の見方

8ページ目以降、現総合計画の基本計画の15の達成方針について、「成果指標の達成状況」「取り組んだ主な事業及び実績」「成果の考察」「検証」の4つの観点から振り返りを行います。

なお、資料における成果指標の見方については以下のとおりです。

#### 【掲載例】

1 成果指標の達成状況	総合計画策定時の実績値	各年度の実績値 【例】H23年度:H23年度中に調査した際の最新の値			改訂基本計画策定時に掲げたH28年度目標値
	総合計画策定時	H23年度	H25年度	H26年度	目標値
地域の教育ボランティアの人数(年間) 【人】(担当課資料)	3,209	7,259	8,555	8,524	7,500
「青少年が心身共に健全に成長する環境が整っている」と感じている市民の割合 【%】(市民意識調査)	9.9	13.6	12.0	14.0	30.0
人権事業への参加者数(年間)【人】 (担当課資料)	863	3,480	3,752	3,653	4,000
「男女共同参画や人権擁護など自由で平等な地域社会となっている」と感じている市民の割合【%】(市民意識調査)	13.7	12.9	10.5	9.7	18.0
平和事業への参加者数(年間)【人】 (担当課資料)	4,514	4,406	3,612	3,625	6,900
「学校教育が充実している」と感じている市民の割合【%】(市民意識調査)	15.5	13.2	13.7	14.9	33.0
不登校児童の出現率【%】 (担当課資料)	0.52	0.46	0.38	0.46	0.42
不登校生徒の出現率【%】 (担当課資料)	3.61	4.6	4.0	3.46	3.0

平均達成率:84%

上記の成果指標の達成率の平均値  
(※達成率:平成28年度の目標値から平成26年度の目標値を案分して算出し、この目標値と平成26年度の実績値を比較した値)

### イ. 達成方針ごとの振り返り

8ページ目以降参照。

# 基本目標1「よここびにあふれるひと」

## 達成方針1-①<人間力>

一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ

### 基本施策

1. いのちを大切に作る心もち、社会性や規範意識を身につける環境をつくる
2. 平和・人権に関する意識啓発を推進する
3. 男女共同参画意識を高める
4. 子ども時代に生きる力を身につける環境をつくる
5. 基礎的な学力を身につけ、個性を伸ばす教育を充実する
6. 教育施設・機能を整備・充実する

### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・心豊かな人間が形成されている
- ・平和・人権意識が浸透している
- ・男女共同参画社会になっている
- ・生きる力が育成されている
- ・個性が伸長されている
- ・学ぶ意欲が育成されている
- ・教育機能が向上されている

## 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
地域の教育ボランティアの人数（年間） 【人】（担当課資料）	3,209	7,259	8,555	8,524	7,500
「青少年が心身共に健全に成長する環境が整っている」と感じている市民の割合 【%】（市民意識調査）	9.9	13.6	12.0	14.0	30.0
人権事業への参加者数（年間）【人】 （担当課資料）	863	3,480	3,752	3,653	4,000
「男女共同参画や人権擁護など自由で平等な地域社会となっている」と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	13.7	12.9	10.5	9.7	18.0
平和事業への参加者数（年間）【人】 （担当課資料）	4,514	4,406	3,612	3,625	6,900
「学校教育が充実している」と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	15.5	13.2	13.7	14.9	33.0
不登校児童の出現率【%】 （担当課資料）	0.52	0.46	0.38	0.46	0.42
不登校生徒の出現率【%】 （担当課資料）	3.61	4.6	4.0	3.46	3.0

平均達成率:84%



## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取組み実績
平和意識普及・啓発事業	「市民平和のタベ」、「市民キャンペーン」、「市民広島派遣」の3つの事業を市民と協働して実施したほか、空襲や被爆の体験をきく会、各種パネル展を開催しました。
人権擁護普及・啓発事業	人権講演会など、さまざまな機会を通じて人権に対する意識啓発活動に取り組みました。また、平成25年2月に、「平塚市人権施策推進指針」を策定し、指針に基づく施策を推進しました。 (主な事業 人権講演会、人権キャンペーン、人権啓発リーフレットの配布等)
男女共同参画プラン推進事業	情報誌「まめ」の発行、男女共同参画推進登録団体と講演会等の共催事業を実施など、男女共同参画に関するさまざまな意識啓発を行いました。(主な事業 情報誌発行、団体との共催事業、再就職準備、キャリア開発及びデートDV防止講座等)
サン・サンスタッフ派遣事業	平成18年度の学習支援補助員小学校28校71人中学校12校15人・学校司書小学校4校4人から、段階的に拡充整備しました。学習支援補助員は平成19年度に小学校28校中学校15校の全校配置を達成、26年度末には110人(小81人中29人)を派遣し、一人一人に応じた指導の充実のため学習面・生活面の支援をしました。学校司書は平成24年に全校配置を達成、43人を派遣し、学校図書館を利用した学習活動や読書活動の充実を図りました。
スクールカウンセラー派遣事業	市スクールカウンセラー13人を、小学校28校全校に、中学校15校中11校に配置し、県のスクールカウンセラーと合わせて小・中学校全校に配置することで、児童・生徒、保護者及び教職員に対する支援を行いました。
小・中学校体育館耐震補強事業	小中学校の体育館について、耐震補強工事を実施し、児童生徒等の安全や避難施設としての安全を確保しました。平成24年度をもって、すべての小中学校の校舎および体育館の耐震化が完了しました。

## 3 成果の考察

平和意識の普及・啓発に関しては、各種事業の参加者総数は近年伸び悩んでおり、また、人権意識・男女共同参画の普及・啓発に関しては、市民意識調査の結果、多くの市民が自由で平等な地域社会だと実感するには至っていない状況となりました。一方で、イベントや講演会、市民活動団体との共催事業には、多くの参加者があることから、徐々にではあるものの、市民の中に平和・人権意識が浸透しつつあると考えられます。

また、学校教育や教育環境については、基礎的な学力と時代の変化に対応した学びの推進や、教育相談体制等の充実を図ったほか、すべての小・中学校施設の耐震化を行ったことにより、近年は「学校教育が充実している」と感じている市民の割合が増加傾向にあるなど、子どもたちがより通いやすい学校環境づくりが進められていると考えられます。

## 4 検証

- ・一人一人の心のやさしさを育むためにも、平和や人権、男女共同参画などの意識啓発事業を、市民意識の変化と社会の動向に合わせてうえで、継続的に実施することが必要です。
- ・学校教育の目的や目標を達成するために必要な学習環境の整備として、教育施設の整備や、支援教育のより一層の充実など、安心して安全に学べる環境を構築することが必要です。
- ・教職員の研究・研修や学習支援体制の充実を図り、学習指導要領に基づき、生きる力を育むとともに時代の変化に対応した学びを推進することが必要です。

## 基本目標1「よここびにあふれるひと」

### 達成方針1-②<感性>

生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ

#### 基本施策

1. 生涯にわたる学習・スポーツ・レクリエーションを楽しむ環境を充実する
2. 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する
3. 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する
4. 価値ある歴史的遺産を守り伝える環境をつくる

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・学習・スポーツ・レクリエーションを楽しむ心の豊かさがある
- ・質の高い芸術・文化を追及する心のゆとりがある
- ・個性ある平塚の郷土文化を感じる心の幸せがある
- ・文化財を守り伝える心のやさしさがある

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
『平塚の芸術・文化をはぐくむ体制が整っている』と感じている市民の割合【%】 (市民意識調査)	18.9	30.3	20.6	20.9	38.0
『市民の生涯学習活動を支援する体制が整っている』と感じている市民の割合【%】 (市民意識調査)	14.1	18.0	26.7	27.0	23.0
『市民が体力・年齢・目的に応じて、様々なスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境が整っている』と感じている市民の割合【%】(市民意識調査)	27.5	32.4	30.6	27.7	50.0
博物館利用者数(年間)【人】 (平塚市統計書)	74,898	51,627	72,310	57,103	86,000
美術館利用者数[観覧者数](年間)【人】 (平塚市統計書)	59,080	95,049	110,853	90,906	100,000
市民一人当たりの図書などの貸出点数(年間)【点】(担当課資料)	6.07	6.52	6.52	6.22	7.5
図書館利用者数(年間)【人】 (担当課資料)	—	896,086	841,789	798,851	965,000

平均達成率:86%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取組み実績
囲碁文化振興事業	イベント事業、普及事業、啓発事業により、年間を通して子どもから高齢者まで囲碁を楽しめる事業を継続して行いました。(主な事業:湘南ひらつか囲碁まつり、各種囲碁大会、囲碁教室、タイトル戦の誘致、囲碁サミット開催と参加等)
サッカー文化の振興によるまちづくり事業	湘南ベルマーレと連携して、幼稚園や保育園、小学校への巡回授業や小・中学生トレーニングセンターへ指導者を派遣した他、親子サッカー教室、幼児交流サッカー大会など、多くの市民にサッカーに親しむ機会を提供しました。
無形文化財保存事業	ひらつか民俗芸能まつりの実施、市内の民俗芸能継承団体への補助金の交付、地域公演活動や後継者育成等を支援し、市民が郷土の民俗芸能に触れあう機会の創出と、理解を深めました。(主な事業:「平塚民俗芸能まつり」、「ひらつか七夕まつり芸能大会」等)
多様な学習推進事業	中央公民館における市民大学講座、市民アカデミーや25地区公民館での高齢者学級、家庭教育学級、児童・生徒地域参加事業の共通事業及び自主事業等を開催し、地域住民の学習活動を支援するため、地域の特性を生かしながら、文化教養や現代的な課題等の多様な学習機会を提供しました。
博物館特別展事業	年3回の特別展、博物館で活動するサークルの活動成果を発表する博物館文化祭を開催しました。時宜にかなったテーマを選定し、市民・地域の研究活動と連動した企画や、分野間をまたぐ企画、文化ゾーン3館や環境・防災・文化財等他部署と連携した企画展を実施しました。
魅力ある美術展覧会事業	企画展3本と特集展で、年間9本の展覧会を開催し、幅広い年代層の観覧があり、平成22年度から平成26年度の最近5年間の年平均は、97,000人を超える観覧者数となりました。

## 3 成果の考察

「様々なスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境が整っている」と感じている市民の割合は伸び悩んでいることから、市民の多種多様なニーズの広がりや要望に対し、応えきれていないと考えられます。一方で、各種スポーツ大会や湘南ベルマーレと連携をした小学校への巡回授業等の事業を通じて、心身の健全育成や地域の世代間交流が図られているなど、スポーツを楽しむ環境整備の充実に向けた取組みが進められていると考えられます。

また、芸術・文化については、来館が困難な方が図書館の資料を利用しやすいような図書館サービスの拡充や、美術館においては様々な世代を視野に入れた展覧会を開催するなど、市民の芸術・文化をはぐくむための各種事業を実施することによって、「芸術・文化や生涯学習に関して体制が整っている」と感じている市民の割合は高まっていることから、優れた芸術・文化を鑑賞する機会の充実が図られていると考えられます。

## 4 検証

- ・生涯学習施設等の設備改修や施設の長寿命化を進め、優れた芸術・文化を鑑賞することができる環境を整備することが必要です。
- ・市民一人一人が芸術文化、スポーツなどを主体的に学ぶ生涯学習の機会を提供するため、学習環境をより一層充実する必要があります。
- ・価値ある歴史的遺産を守り伝えるため、地区公民館や他団体との連携などを通して、子どもたちへ様々な活動の周知を行う必要があります。
- ・各公共施設においては、市民が利用しやすい環境の整備や、魅力ある催事など、利用機会の拡充が必要です。

## 基本目標1「よここびにあふれるひと」

### 達成方針1-③<交流>

ひと・文化の活発な交流が広がる環境をつくる

#### 基本施策

1. 学術・文化・スポーツなどを通じた市民の交流活動を推進する
2. 地域の文化をお互いに理解し、活発な交流を進める

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・市民と大学・高校・企業との盛んな交流のあるまちになっている
- ・活発な人間・都市間交流により、開かれたまちになっている。

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
『国際交流や外国籍市民との交流、国内各都市との交流などを通じて、地域の文化や経済が発展している』と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	10.6	9.2	6.9	5.6	20.0
『コミュニティ活動やボランティア活動が充実している』と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	15.4	21.7	10.7	9.7	30.0
市民向け大学交流事業への参加者数(年間)【人】（担当課資料）	—	18,544	23,958	17,028	21,000
交流イベントや国際理解講座への参加者数(年間)【人】（担当課資料）	3,634	4,456	4,243	3,230	4,800
日本語教室の受講者数(年間)【人】（担当課資料）	154	157	219	251	250
姉妹都市市民や外国籍市民との交流会やホームステイへの参加者数(年間)【人】（担当課資料）	261	112	216	302	300

平均達成率:72%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取組み実績
市民・企業・大学等交流事業	平塚市民・大学交流委員会の文化・生涯学習、スポーツ、福祉、環境、観光の5つの推進部会により12事業を実施し相互の交流が活発に行われました。
友好都市交流推進事業	市民休養の郷であった伊豆市と平成24年度友好都市の提携を行いました。また平成24年度高山市と、平成26年度には花巻市と友好都市提携30周年を迎え、記念式典を開催しました。このほか各市と各種交流事業を実施しました。 (主な事業:市民ツアー、子どもマリン交流、少年少女交流キャンプ、こどもスノー交流、物産展等)
外国籍市民交流推進事業	市民と外国籍市民が協力して各種交流事業を開催するとともに、日本語教室や日本語ボランティア養成講座などを実施しました。 国連協会平塚支部が実施する国際理解・国際協力のためのポスター・作文コンテストに多くの子供たちが参加し、平成26年度には中学生が文部科学大臣賞を受賞しました。 (主な事業:ローレンス市青少年市民交流、みんなで楽しもう会、国際交流フェスティバル等)
国際交流活動推進事業	カンザス大学からの留学生や姉妹都市ローレンス市からの青少年派遣訪問団のホームステイの受け入れや市民交流会を開催しました。また、平成22年度及び平成23年度にはローレンス市姉妹都市提携20周年を記念して公式訪問団による都市間交流を行いました。 (主な事業:各種交流会、ホームステイの受け入れ、ローレンス市紹介事業等)

## 3 成果の考察

市民・企業・大学交流については、現在では、市民・大学交流委員会の中で文化・生涯学習、スポーツ、福祉、環境、観光の5つの幅広い分野で事業を実施しており、そのなかで市民・大学の連携で「子ども大学ひらつか」などの新たな事業が加わったことにより、多くの市民の参加が得られ、活発な交流活動を行うことができたと考えられます。

国際交流や友好都市交流については、各友好都市との交流イベント、記念式典などや、外国籍市民と市民とが協力して各種講座やイベントなどを実施し、多くの市民の方の参加をいただき交流を深めることができました。なかでも、日本語教室の人気は高く、外国籍市民との交流イベントでは多くの参加があり、活発な都市間交流により開かれたまちなに向け、一定の成果が得られていると考えられます。

## 4 検証

- ・各種交流事業については、参加者が伸び悩んでいる事業もあるため、活発な人間・都市間交流をめざし、より多くの市民が参加できるような事業の検討や、周知を図る必要があります。
- ・市民、大学、企業における交流を推進するためには、大学や企業による地域活動への参加など、多様な分野における市民との交流活動を展開する必要があります。

## 基本目標2「支え合うコミュニティ」

### 達成方針2-①<地域力>

地域組織や市民活動の力を育て、まちづくりに活かす

#### 基本施策

1. 多様な地域組織や市民活動を支援する
2. 地域力を調整するコーディネーターが活躍できる環境を整える
3. 地域社会で家庭や地域の子育てする力を高める

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・地域組織、市民活動団体、企業など地域社会を構成する団体が横に連携しながら、地域力を発揮して、地域課題を解決している
- ・地域の核となる施設に常駐するコーディネーターが、地域の団体や個人を結び付ける役割を果たしている
- ・地域課題のうち、特に「地域で子育て」に取り組み、安心して子どもを産み育てる環境が整っている

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23年度	H25年度	H26年度	H28年度
『地域ぐるみでの支え合いによって、福祉活動が進められている』と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	17.0	18.6	10.3	8.6	29.0
『市民・企業・行政の協働、市民全体の活動が充実している』と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	8.7	9.7	6.5	6.5	20.0
『コミュニティ活動やボランティア活動が充実している』と感じている市民の割合【再掲】【%】（市民意識調査）	15.4	21.7	10.7	9.7	30.0
ひらつか市民活動センター登録団体数【団体】（行政概要）	254	303	293	309	330
ひらつか市民活動センター延べ利用団体数【団体】（行政概要）	5,026	6,466	6,608	6,595	6,800
ボランティア登録者数（団体登録者数を含む）【人】（平塚市社会福祉協議会ボランティアセンター資料）	3,323	3,318	2,864	2,845	5,000
市内に主たる事務所を置くNPO法人数【団体】（行政概要）	61	82	91	93	120

平均達成率:65%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取り組み実績
地域自治推進 (モデル)事業	地域に出向き、自治会や地域の各種団体との話し合いを行い、地域自らが地域の課題解決に向けて継続して協議していく場の設置を進め、地域の様々な団体が連携して防犯や防災、福祉などの地域課題に対する取り組みにつなげる支援を行いました。また、地域内の情報の共有化を進めるためのホームページ(ちいき情報局)の開設を支援し、順次拡大を図りました。
地域組織育成事業	連合自治会及び単位自治会・町内会が中心となり、地域のふれあい活動や防犯・防災活動や環境美化活動などに取り組み、活発なコミュニティ活動が展開されました。また、平塚市自治会連絡協議会・(公社)神奈川県宅地建物取引業協会湘南中支部・平塚市で自治会等への加入促進に関する3者協定を結び、互いに連携して加入促進に向けた取り組みを行いました。
保育所ふれあい 交流推進事業	世代間交流事業や異年齢児交流事業等を通じ、高齢者から低学年児までが保育所の児童とふれあうことで、地域での保育所入所児童との関わりを深め、また児童の社会性を養いました。また、開放保育などを通じて幼稚園や保育園を利用しない家庭の子育て支援を行いました。
放課後児童健全 育成事業	本事業を柔軟で効率的に実施するため、放課後児童クラブの運営を委託(一部指定管理者制度)し、安心・安全な保育環境の実現のため民間借家の放課後児童クラブを小学校の余裕教室等の公共施設への移設を進めるとともに、放課後児童クラブの利用状況等により、必要に応じて新設・分割等の整備を行いました。 また、平成27年度子ども・子育て支援新制度の施行に合わせて、平成26年度に「平塚市放課後児童健全育成事業の施設及び運営に関する基準を定める条例」を制定しました。
地域教育力ネット ワーク推進事業	各中学校区に設置している地域教育力ネットワーク協議会では、子どもたちの主体的参加により、世代間の交流、生活体験、自然体験を通して、「生きる力」を育むために、防災キャンプ、通学合宿、カルタ大会など、各地区で独自の事業を実施しました。 全地区共通事業としては、見守りパトロール、こどもサポート看板の設置・管理及び研修会を実施しました。また、新たに芸術文化子ども体験教室を開催しました。

## 3 成果の考察

多様な地域組織や市民活動を支援するために、自治会等に対して人的・財政的な支援を行いました。一部の地域では、自治会をはじめとした様々な団体が連携して地域課題等について話し合いを行う「協議の場」がつけられ、課題解決に向けた継続的な取り組みが可能になったと考えられます。

各種講座等による多様な市民活動への支援により、市民活動センターの登録団体数や利用団体は増加傾向にあり、一定の成果を上げることが出来ました。また、形成された地域組織は、地域の学校や市民団体などと連携して事業に取り組んでおり、各地域で行われた先進事例や成功事例が情報共有されることにより、今後も、全市的な広がりや発展性を持って事業が展開されていくものと考えられます。

## 4 検証

- ・地域が主体となり、多様化する課題解決等への取り組みを進めることは今後さらに必要であり、地域の力が十分に発揮できるよう、地域の実情に応じた支援策を検討する必要があります。
- ・多様化する地域課題の解決に向けて、活動団体が相互に交流を深め、連携して事業を行うことで、事業効果の高め合いや、新たな発想による取り組みを生み出すことが必要です。
- ・子どもの「生きる力」を育むため、子どもが自ら考え、主体的に地域活動に参加する体制づくりを進める必要があります。
- ・まちづくりの推進には地域の力を育てることが必要不可欠であるため、地域で安心して子育て出来る環境づくりを始めとした、地域ごとの課題解決を図るための意識の醸成や体制づくりが必要です。

## 基本目標2「支え合うコミュニティ」

### 達成方針2-②<市民力>

市民一人一人の主体的な参加により、地域で支え合う環境をつくる

#### 基本施策

1. 地域を支える活動に参加する意識を高める
2. 一人一人が地域課題の解決に取り組むことができるしくみをつくる

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・障がいのある人ない人、年齢、性別、国籍や文化の違う人など様々な人が地域活動や市民活動に積極的に参加している
- ・地域に福祉、環境、防災などの生活課題に対応できる地域ボランティアセンター機能が充実しており、多くの地域住民が登録し、様々な支援活動を行っている

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
自治会への加入世帯数【世帯】 (行政概要)	78,270	79,824	80,018	80,093	85,400
ひらつか市民活動センター利用者数 (年間)【人】(行政概要)	33,517	47,975	49,442	47,930	55,000
公民館利用者数(中央公民館及び2 5地区公民館)(年間)【人】(行政概 要)	1,266,980	1,138,562	1,103,188	1,032,592	1,602,000
生きがい事業団会員登録数【人】 (行政概要)	1,573	2,030	1,836	1,692	2,200
ボランティア登録者数(団体登録者 数を含む)【再掲】 【人】(平塚市社 会福祉協議会ボランティアセンター資料)	3,323	3,318	2,864	2,845	5,000
町内福祉村ボランティア登録者数 【人】 (担当課資料)	768	1,113	1,277	1,487	1,800

平均達成率:83%



## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取り組み実績
市民活動普及啓発事業	市民活動センターを拠点として、市民活動団体のスキルアップを目的とした講座の開催や関連情報の収集・発信を行うなど、市民活動の活性化に向けた取り組みを行いました。また、多様な市民の参加促進を図るため、市民活動やボランティア活動への参加のきっかけづくりを行いました。 (団体向け講座:助成金講座、基礎の税務講座、人材獲得講座、パソコン講習会など/情報発信:HP、メルマガ、ボランティア募集情報誌「たすけっと」の発行など/きっかけづくり:青少年向けの「ユースボランティア」、一般市民向けの「ボランティア&市民活動見本市」の開催など)
ひらつか市民活動センター等管理事業	ひらつか市民活動センターの経費節減に努め効率的な管理運営を進めるとともに、新たな市民活動団体の登録促進や、学校・事業者との連携により幅広い市民の利用拡大を図りました。また、帰宅困難者一時滞在施設の機能も担うなど施設の有効利用を進めました。
地域福祉推進事業(町内福祉村事業)	町内福祉村の施設については、毎年1地区から2地区で開設に向けた地域住民主体の協議が進められ、拠点施設の確保や運営協議会の立ち上げを経て、新たに8地区で開設しました。また、既設と合わせた合計16地区の福祉村に対し、地域住民の自主的、主体的な相互の支えあい活動やふれあい交流活動等への支援を行いました。さらに未設置の地区に対しては、開設に向けた説明会等を積極的に実施しました。

## 3 成果の考察

自治会への加入世帯数については、平塚市自治会連絡協議会・(公社)神奈川県宅地建物取引業協会湘南中支部・平塚市で自治会等への加入促進に関する3者協定の締結をはじめ、様々な加入促進策を進めたことにより増加傾向にあり、一定の成果を上げることができました。

また、市民活動・ボランティア活動の拠点である市民活動センターの機能充実に努めるとともに、幅広い市民層の市民活動への参加を促進するため、学生を対象としたボランティア育成講座の開催や企業等への働きかけを行いました。その結果、市民活動センターの利用者数も増加し、多様な市民が地域課題の解決に取り組むための環境整備が進んだと考えられます。

町内福祉村におけるボランティア登録数は増加し、支援活動の内容も多様になる等、町内福祉村活動が年々盛んになっていることから、地域における支え合いや課題の解決に主体的に取り組む福祉活動の体制づくりが進んでいると考えられます。

## 4 検証

- ・市民活動団体が今後も継続的・発展的な活動を続けていくためには、団体の組織基盤強化に重点を置いた支援を行い、多くの市民がいきいきと活動できる環境を整える必要があります。
- ・少子高齢化の進行や人口減少が予測される中、より住みやすく、豊かな地域をつくるためには、市民一人一人が地域の課題などに対し自主的・主体的に取り組む機運の醸成が必要です。
- ・町内福祉村などの、地域で必要とされるサービスが、より多くの方に利用され、地域の絆が一層深まるように活動の発展、充実を目指す必要があります。

## 基本目標2「支え合うコミュニティ」

### 達成方針2-③<健康・安心・福祉力> その人らしく安心できる生活を支援する

#### 基本施策

1. 総合的なサービスを展開する地域ケア体制を充実する
2. 多様な地域課題に的確かつ総合的に対応する地域密着のサービスを充実する
  - 1) 子育て 2) 高齢者 3) 障がい者 4) 医療・保健 5) 防災・防犯活動 6) 外国籍市民

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・家庭や地域のなかで、障がいの有無や年齢などに関わらず、その人らしく安心できる生活をおくっている
- ・健康・福祉サービスの内容や評価などに関する情報が開示され、市民が適切にサービスを選択できるようになっている
- ・高齢者・障がい者を含め、誰もが心の垣根を感じることなく、地域でいきいきと活動している
- ・外国籍市民が、地域社会の一員としてとけこみ、暮らしている

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
『様々なニーズに対応した子育て環境が整っている』と感じている市民の割合【%】 (市民意識調査)	9.5	13.5	12.1	13.0	40.0
保育園の待機児童数【人】(担当課資料)	35	0	29	32	0
合計特殊出生率【%】(神奈川県衛生統計年報)	1.20	1.29	1.24	1.25	↗
『心身の健康を守る保健・医療の体制が充実している』と感じている市民の割合【%】 (市民意識調査)	17.8	21.3	19.2	17.7	25.0
『障がいのある人もない人も、家庭や地域で安心して生活する体制が整っている』と感じている市民の割合【%】(市民意識調査)	9.1	11.8	7.4	8.6	30.0
『高齢者が生きがいをもち、いきいきと暮らせる体制が整っている』と感じている市民の割合【%】(市民意識調査)	11.5	13.5	11.6	10.2	30.0
健康診断受診者数 がん検診(年間)【人】 (行政概要)	32,127	38,362	40,706	41,743	49,000
介護予防サービスの実施により、状態の悪化を防止させた人数【人】(担当課資料)	53	383	718	698	750
『日常生活の安全が守られている』と感じている市民の割合【%】(市民意識調査)	13.0	19.1	14.6	14.9	30.0
交通事故発生件数(年間)【人】(行政概要)	2,244	1,746	1,504	1,428	1,640
犯罪発生件数(年間)【件】(行政概要)	4,833	3,447	3,063	2,896	3,300
自主防災組織の防災訓練参加者数(年間)【人】 (担当課資料)	6,447	5,461	8,920	19,839	7,500

平均達成率:91%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取り組み実績
防犯施設整備事業	平成19年度から23年度にかけ、暗くて危険と思われる箇所にある防犯街路灯約3,000灯を高照度な灯具に交換し、21年度からは市管理防犯街路灯を長寿命で地球温暖化対策にもなるLED灯へ交換を進め、26年度までに全ての市管理防犯街路灯のLED化を完了しました。また26年度には、それまで未設置だった平塚駅西口南側に防犯カメラを新設し、駅周辺の犯罪抑止力を強化しました。
成年後見利用支援センター設置事業	平成26年9月15日に成年後見利用支援センターを開設しました。相談等の業務を実施するとともに神奈川県等と連携し、市民後見人養成講座を開催しました。基礎研修、実践研修を経て6人が社会福祉協議会の法人後見事業の後見サポーターとして活動しています。
介護予防事業	生活機能チェックシートの結果によって、虚弱である二次予防事業対象者には、運動機能向上教室などを案内して参加を促しました。特に問題のない一次予防事業対象者には、転倒予防教室などの開催案内を周知しました。毎年、介護予防について普及啓発を行いました。
障がい者就労促進事業	障がい者の就労や職場への定着を支援するため、就労援助センターに助成をしました。ひらつか就労援助センターの新規相談者は637名で、内239名が一般就労しました(平成19年度から26年度までの延べ人数)。
民間保育所施設整備支援事業	民間保育所の小規模修繕に係る経費の一部を助成したほか、民間保育所の新設や老朽化した施設の建替えに助成することにより保育所の定員増を図りました。
健康増進事業	がんの早期発見と正しい健康意識・知識の普及・啓発のため、保健センター及び市役所でのパネル展示や健康教育の実施、がん検診受診の重要性の普及啓発等、生活習慣病予防のための知識の普及・啓発及び健康教室を実施するとともに、各種健(検)診を実施しました。がんの集団検診では、乳幼児連れで安心して受診できるよう、保育の実施日を設けました。

## 3 成果の考察

地域密着型を含めた特別養護老人ホームの入所定員を増加させ、待機者の軽減を図るとともに、各種介護予防教室を開催しました。また、認知症について子どもから大人まで幅広く理解をしていただくために認知症サポーター養成講座を行うとともに、ひとり暮らし高齢者等の見守りを強化したことにより、高齢者が住み慣れた地域で安心・安全にいきいきと暮らせる環境づくりが進められていると考えられます。

障がいのある人が地域で自立した生活を営めるよう、就労機会が拡充され、相談から一般就労へも高い割合で結びついています。就労後の職場定着率も増加していることに加え、企業や特別支援学校との連携も図られていることから、障がいのある人の就労に対しては、着実な成果が上がっているものと考えられますが、成果指標の達成状況からは、市民意識との隔たりが大きいと考えられます。

がん予防、がん検診についての普及啓発を目的としたパネル展示などの実施によって、がん検診の受診者数は増加傾向にあり、市民の健康に対する意識が高まっていると考えられます。

## 4 検証

- ・今後ますます高齢化が進行していく中、高齢者が住み慣れた地域で安心して長寿を楽しむためには、それぞれの地域で医療、介護、予防、住まい、生活支援が切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の構築が重要となります。また、医療と介護の連携、介護サービスの充実、地域で取り組む健康増進、地域住民同士の支え合いなど、各種団体や企業、住民がそれぞれの役割を果たす必要があります。
- ・障がい者や高齢者が地域でその人らしく安心して生活できるまちづくりを進めるためには、制度やサービスの充実を図り、共生社会の実現に向けた相互理解を促進する必要があります。
- ・国民健康保険の特定保健指導の実施率低下が課題となっていることから、市民一人一人の健康への関心を高めるため、より一層、特定保健指導を受けることへの呼びかけが必要です。

## 基本目標3「やすらげる環境」

### 達成方針3-①<自然との共生>

四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ

#### 基本施策

1. 自然を守るしくみづくりを進める
2. 自然と親しめる場づくりを進める

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・自然を守る体制が整っている
- ・自然とふれあえるしくみができている
- ・人が自然と親しんでいる

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
『海や川、丘陵地のみどり（里山・樹林等）、社寺林などの良好な自然環境が保全されている』と感じている市民の割合【%】 （市民意識調査）	38.0	38.0	28.6	29.1	48.0
里山保全活動への参加者数 （年間）【人】（担当課資料）	396	521	387	418	850
市民との協働による環境学習への参加者数（年間）【人】（担当課資料）	642	1,468	2,213	2,653	1,600
環境ファンクラブ会員数【会員】 （担当課資料）	58	91	98	102	200

平均達成率:98%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取組み実績
環境活動支援事業	環境保全に取り組んでいる市民の集まりである「ひらつか環境ファンクラブ」によるパネル展示会や活動発表会の開催を支援し、会員相互の交流促進や環境情報の提供を行いました。また、環境ファンクラブと連携・協力し、各種イベントにおいて環境教室の開催や、グリーンカーテンの普及等の環境啓発活動を実施するほか、環境リーダーとなる市民の養成講座を開催しました。
環境教育推進事業	子ども環境教室(海編、川編、里山編)を開催し、子どもたちや保護者が環境について学ぶ機会を提供することができました。また、教育委員会と協力し、市内小中学校や幼稚園を対象にわかば環境 ISO の取組みや、環境ポスター・作文コンクールを通じて、環境に対する意識の醸成を図りました。
里山保全推進事業	里山保全協議会を開催し、市民ボランティアの参加のもと里山の整備を行うとともに、市民、大学、自然環境保全団体と協働で市民・大学交流事業や子ども環境教室を実施し、自然環境保全の啓発をしました。また、神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例で認定されている市民活動団体2団体を県とともに支援し、市民を主体とした継続的な里山保全活動を促進しました。
花とみどりの推進団体育成事業	「公園愛護会」への交付金、「公園愛護会連絡協議会」への補助金の交付を行うとともに、総会、役員会を開催し、公園愛護活動の推進や公園愛護会の設立・育成を図りました。(主な事業:「市外公園視察研修会」、「補助物品支給事業」など)
保全樹等指定事業	市内に残された貴重な樹木、樹林、生垣について、保全樹等の指定に向けた調査や募集を行いました。また、保全樹等に指定された樹木等については、適正な管理が行われるよう、奨励金の交付や、枯損及び倒木を防ぐための処置、樹勢回復の施術、危険回避の措置を行い、良好な樹木等を保全しました。
自然観察事業	定例行事「自然教室」の中で、自然環境や里山の環境が残る西部地区をフィールドに「子ども探検隊」「自然観察ゼミナール」を実施しました。

## 3 成果の考察

本市の自然環境の保全状況に対する市民意識では、肯定的に捉える市民の割合が低下している傾向にあります。また、里山保全活動への参加者数はおおむね同水準で推移しており、市民が主体となった里山の維持・管理が進められていると考えられます。

また、公園についても公園愛護活動等により、良好な公園環境が維持されており、身近な公園を通じて人が自然と親しめる憩いの場として活かされています。

環境ファンクラブ会員数や、市民と協働した環境教室への参加者数が増加傾向にあることや、本市の里山や河川等の多様な環境を生かし、環境学習や自然体験が行われていることから、市民の自然環境について学べる機会・内容の充実と、自然環境や自然と人間の営みの関わりなどに対する関心・理解を深めることができたと考えられます。

## 4 検証

・市内に残された樹林地などのまとまりのある緑については、概ね保全されていると考えていますが、一方で良好な自然環境が保たれていると感じる市民の割合が低下していることから、本市の自然環境の質の向上に向けた取組みが必要です。

・良好な自然環境を次世代に引き継ぐことや、自然と親しめる環境を維持していくためには、市民による取組みを支援していくことが必要です。

・市民団体等と連携と適切な役割分担のもと、市民の自然環境に対する意識の高揚を図ることが必要です。

## 基本目標3「やすらげる環境」

### 達成方針3-②<住みごち>

人にやさしい居住空間をつくる

#### 基本施策

1. 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める
2. 身近な生活環境を充実する
3. 環境に配慮した都市基盤整備を進める

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・周辺の環境と調和した景観になっている
- ・歴史・文化が身近に感じられる
- ・秩序とゆとりある生活をおくっている

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
『花やみどり豊かな街並みが形成されている』 と感じている市民の割合【%】 (市民意識調査)	33.4	35.9	22.8	23.8	48.0
市民参加による公園管理の割合【%】 (担当課資料)	58.4	60.0	61.0	61.0	63.0
『快適な住環境が形成されている』と感じている 市民の割合【%】 (市民意識調査)	21.2	20.2	17.0	17.9	50.0
『買い物や通勤・通学など市内外への移動がし やすい環境が整っている』と感じている市民の 割合【%】 (市民意識調査)	28.8	26.7	20.0	19.3	40.0
『地域の特色を活かした公園や緑地が整備さ れている』と感じている市民の割合【%】 (市民意識調査)	33.1	43.6	43.9	39.8	47.0
『下水道や河川・排水路の整備が進んでいる』 と感じている市民の割合【%】 (市民意識調査)	34.1	35.5	25.4	23.8	50.0

平均達成率:64%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取組み実績
自転車通行帯整備事業	平成 26 年度に自転車通行帯整備の必要性が高い平塚駅から 3 km 圏域の自転車ネットワーク計画を盛り込んだ「平塚市自転車利用環境推進計画」を策定しました。計画に基づき約 1 km の自転車通行位置を示す路面表示により、自転車走行空間の整備を行いました。
ツインシティ整備推進事業	土地区画整理組合の設立に向けて、組合設立準備会や組合設立準備部会を開催したほか、地権者説明会、まちづくりシンポジウム、ミニ集会等の開催により、地権者や地元住民に対し、ご理解がいただけるよう取り組みました。また、都市計画や環境アセスメントについて、関係機関との協議、調整を図り、手続きを進めました。
花とみどりのまちづくり推進事業	小中学校、公民館などの公共施設や地域の緑化団体などに草花の種子や苗の配布を行いました。また、駅南口の八重咲町自治会や代官町商店会と協働して、街路樹帯などへ花苗の植栽を行いました。
公園整備事業	街区公園等の整備を進め、寺田縄えのしろ公園や塚越公園を開設しました。また、達上ヶ丘公園の再整備や高麗山公園(湘南平)の桜の補植を実施することで、公園の老朽化への対応を図り、公園機能を維持保全しました。平成 25 年度には、湘南海岸公園再整備方針に基づき、湘南海岸公園再整備計画を策定しました。
橋りょう長寿命化修繕事業	平成 25 年 7 月に平塚市橋りょう長寿命化修繕計画を策定し、橋りょうの管理手法を「事後保全」から「予防保全」への転換を図りました。平成 26 年度までに美里橋、馬入本町架道橋、上吉沢架道橋の補修設計や、下花水橋外 5 橋の点検調査、城所架道橋の補修工事等を実施し、かつ、維持管理費用の低減と平準化を図りました。
公共下水道合流改善事業	馬入雨水貯留管築造工事や馬入雨水貯留管ポンプ場築造工事を行い、平成 21 年度に JR 東海道線北側の合流改善事業が終了しました。平成 22 年度からは、松風町・久領堤貯留管築造工事や久領堤貯留管ポンプ場築造工事に順次取組み、平成 25 年度に JR 東海道線南側の合流改善事業が終了しました。

## 3 成果の考察

都市基盤整備に係る市民意識の状況は、目標値とのかい離が見られるものの、地域の豊かな自然環境に配慮した住宅市街地や公園の整備によって、身近な生活環境の充実が図られたほか、道路の改良等によって移動時の利便性や安全性が向上しました。

また、市民と連携した地域の緑化・美化活動、地域の歴史・文化の発信が継続的に行われていることや、良好な居住環境が保たれる仕組みが整ったことから、市民が快適に暮らせる居住空間の形成が図れたと考えられます。

## 4 検証

- ・都市基盤は、市民生活に直結する分野であり、市民がより快適に過ごせる居住空間をつくるためには、まちの特性を活かしたまちづくりを進めるとともに、まちの魅力向上に向けた取組みも進めていくことが必要です。
- ・周辺の広域道路インフラの整備が進んでいることから、人と環境にやさしく、新しい産業や都市機能が集積した平塚の「北の核」としてのツインシティ大神地区整備の早期実現を図るとともに、まちの魅力向上や地域活性化の拠点づくりに取り組む必要があります。
- ・歩行者の安全確保や車両通行の円滑化に向けた道路整備や、自転車の利用しやすいまちづくりをハード面、ソフト面から進め、移動時の安全性や利便性を高めていくことが必要です。
- ・安全で快適に暮らせるまちとして、景観に配慮したまちづくりや、局所的大雨による浸水対策に取り組むことが必要です。

## 基本目標3「やすらげる環境」

### 達成方針3-③<循環型社会>

循環型社会をめざして環境負荷の少ない暮らし方を定着させる

#### 基本施策

1. 環境に配慮した事業活動・暮らしのしくみをつくる
2. ごみの排出を抑制し、資源化を進める
3. 環境負荷の少ないエネルギー利用を進める

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・クリーンなまちづくりのしくみができている
- ・ごみの減量化・資源化が行われている
- ・クリーンエネルギーが普及している

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
『地球環境にやさしい地域社会が形成されている』と感じている市民の割合【%】 (市民意識調査)	40.0	33.2	26.5	24.8	45.0
1人当たりのごみ排出量 (1日あたり)【g】(担当課資料)	1,076	932	923	907	912
二酸化炭素総排出量【千t-CO2】 (担当課資料)	2,125	1,889	1,748	1,676	1,704
太陽光発電システムの発電力【Kw】 (担当課資料)	1,516	3,257	6,923	8,558	9,500
自動車騒音の環境基準適合地点数【地点】 (ひらつか環境測定レポート)	9/18	5/14	9/18	9/18	18/18
二酸化窒素濃度年平均値【ppm 以下】 (ひらつか環境測定レポート)	0.035	0.024	0.021	0.021	0.020
ISO9000シリーズ及びISO14001 認証取得事業所数【事業所】(担当課資料)	152	167	120	120	200
BODの環境基準適合地点数【地点】 (ひらつか環境測定レポート)	25/30	24/24	23/24	23/23	24/24
環境に配慮した家庭生活を実践している市民 の数【人】(担当課資料)	—	5,103	7,599	8,508	10,000

平均達成率:93%



## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取組み実績
環境にやさしい企業づくり促進事業	環境共生型企業懇話会の活動を支援し、省エネルギー対策やISO等に関する情報交換等を行うとともに、環境フェアや湘南ひらつかテクノフェアに出展し、企業の取組みを情報発信することで、環境にやさしい企業づくりを促進しました。
大気・土壌汚染、水質汚濁、騒音防止対策強化事業	大気汚染や水質汚濁等の防止のため、届出事業所への指導を行い、環境の保全を推進しました。また、環境関連法令等に基づく分析調査や測定を実施し、環境基準の達成状況など環境状況の把握に努めました。
環境事業センター整備事業	平成22年10月から平成25年9月にかけて整備工事を行い、新しい環境事業センターが平成25年10月1日から本稼働しました。
ごみ処理広域化推進事業	ごみ処理広域化実施計画に基づき、平塚市、大磯町、二宮町においてごみ処理の広域化を進めました。平成22年度からは大磯町のし尿処理施設で本市分の処理を開始し、平成25年4月からは平塚市のリサイクルプラザで、同年10月からは平塚市の環境事業センターと粗大ごみ破碎処理場で、大磯町分の受け入れ処理を開始しました。また、平成26年度から二宮町において剪定枝資源化施設の整備に着手しました。
余熱利用施設整備事業	新しい環境事業センターで発生する熱エネルギーを有効利用する余熱利用施設の整備を行うため、建設に向けた基本的な事項をまとめた、「平塚市余熱利用施設整備方針」を平成25年8月に策定し、同年11月に基本設計、実施設計に着手しました。
新エネルギー普及推進事業	市庁舎や保健センター等の公共施設に太陽光発電システムを導入するとともに、一般住宅への太陽光発電システム設置に係る補助金を通じて普及促進を図り、一般家庭の累積発電能力は約9,689キロワットになりました。また、家庭用燃料電池の設置に係る補助金制度を創設し、新たなエネルギーの活用を促進しました。

## 3 成果の考察

平塚市の環境に対して肯定的に捉える市民の割合は増加しなかったものの、ごみの排出量の削減(関連指標について、平成28年度の目標値を平成26年度時に達成)や、新エネルギーの普及(関連指標について、平成28年度の目標値を平成26年度時に概ね達成)が進むとともに、大気環境や水環境がよりよい環境に近づいていることから、身近な生活環境から地球規模の環境まで環境負荷の低減に向けた暮らしや事業活動が定着しつつあると考えられます。

また、本市の事業活動に伴う環境負荷についても新しい環境事業センターにおいて高効率ごみ発電施設として発電を行うことや、ごみ処理広域化による廃棄物処理施設の集約、公共施設への太陽光発電システムの設置によって循環型社会形成の推進に向けたまちづくりが進められていると考えられます。

## 4 検証

・中長期的な二酸化炭素の排出削減や、未達成にある環境基準の達成に向けて、地球温暖化対策につながる取組みや、ごみの減量化・資源化推進等の環境への負荷が少ない生活や事業活動の促進に向けた取組み等について、関係機関や市民と連携しながら進める必要があります。

## 基本目標4「地力を伸ばす産業」

### 達成方針4-①<持続可能>

産業の発展を持続させる

#### 基本施策

1. 産業の持続的な発展に向けて、基本的な理念と戦略を確立する
2. 産業の経営基盤を強化する
3. 世界の市場を視野に入れて、産業間の交流や産学公の連携を進める

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・今まで積み重ねてきた技術が活かされている
- ・産業間の交流が盛んになり、まちがにぎわっている
- ・平塚産がブランド化され、全国に広まっている

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23年度	H25年度	H26年度	H28年度
『優良な農地が多く、農家と都市住民の交流が進むなど、農業が充実している』と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	11.9	18.6	11.4	12.7	25.0
『魅力ある商店街の形成など、商業が充実している』と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	7.1	3.5	6.1	3.5	25.0
年間商品販売額【百万円】 （平塚市の商業—商業統計調査結果報告）	668,098	743,099	743,099	743,099	744,000
事業所数（商業）【事業所】 （平塚市の商業—商業統計調査結果報告）	2,636	2,510	2,510	2,510	2,700
『先端技術をもつ企業の集積など、工業が充実している』と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	16.6	11.5	8.1	6.9	20.0
製造品出荷額等（年間）【百万円】 （平塚市統計書）	1,382,363	927,598	1,057,226	1,018,928	1,450,000
事業所数（製造業）【事業所】（平塚市統計書）	454	409	407	391	470
漁業経営体数【経営体】（担当課資料）	6	7	7	7	9
漁獲量（年間）【t】（平塚市統計書）	456	682	553	514	700
『マリンレジャー・スポーツと一体となるなど、漁業が充実している』と感じている市民の割合【%】（市民意識調査）	10.5	13.8	7.4	9.4	20.0

平均達成率:69%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取り組み実績
中小企業金融支援事業	経済情勢や事業者のニーズ等を反映した資金融資を継続して実施するとともに、利子補給・信用保証料補助制度により、市内中小企業の経営安定に寄与しました。
企業立地等促進事業	工業活性化促進事業を拡充し、企業の誘致と流出防止策として事業所の新增設に係る施設整備助成・延16件、新規雇用助成・延3件、環境設備助成・延2件を承認しました。また、中小企業の機械装置導入に係る設備投資促進助成金・延6件を交付し、工業の活性化を図りました。
テクノフェア推進事業	延899企業・団体の参加により湘南ひらつかテクノフェアを開催し、販路の拡大や企業間等の交流を促進しました。
産学公共共同研究支援事業	製品のメカニズムや効率化に向けた改良などに関する市内企業と大学との共同研究・延23件に対し、その費用の一部を補助し、中小企業の技術力向上や経営基盤の強化を図りました。
産業間連携促進事業	産業間連携を促進するため、市内の各産業界代表者や学識経験者等で組織する「平塚市産業活性化会議」を発足させ、そのもとに設置したPTにより諸課題を解決するための取組を実施しました。また、6次産業化・地産地消法や中小企業地域資源活用促進法の認定を企図する事業者に対し、事業認定や新商品の開発を支援しました。
農道・用排水路整備事業	農道・用排水路を改修整備し、農業生産の向上と安定を図りました。 農道改良 L=5,971.4m、用排水路(防護柵設置含む) L=6,384.7m
農業者金融支援事業	かながわ都市農業推進資金及び農業経営基盤強化資金の利子補給を行い、農業者の農業経営の基盤強化や後継者育成に寄与しました。(かながわ都市農業推進資金利子補給金:延べ711件 7,978,876円、農業経営基盤強化資金利子補給金:延べ41件 622,084円)
漁港施設維持管理事業	清掃や保守点検等により漁港の良好な維持管理を行うとともに、今後の漁港施設の維持補修管理の指針となる機能保全計画を策定しました。
商店等魅力アップ推進事業	商工会議所や商店街連合会と連携し、アドバイザー派遣やセミナー開催等による魅力ある個店づくりや経営改善を促進しました。(主な事業:「個店アドバイザー派遣」、「匠の店認定」、「逸品研究会」、「商業経営セミナー」など)
農地流動化促進事業	農家へのリーフレット配布等による啓発活動を通じて貸し手借り手の掘り起こしを行い、農業委員による貸し借りのあっせんをはじめ、「農業支援ワンストップ相談窓口」等を活用して、今年度は新規で13.0haの農地の利用集積を図りました。

## 3 成果の考察

厳しい経済情勢の中にあっても、年間商品販売額は目標値近くまで上昇したことや、漁業経営体数や年間漁獲量の増加など、漁業・商業関連施策の効果が見受けられました。このほか、農業関連施策の効果から「優良な農地が多く、農家と都市住民の交流が進むなど、農業が充実している」と感じている市民の割合が上昇しました。

また、市内の各産業界代表や学識経験者等で組織する「平塚市産業活性化会議」や「プロジェクトチーム」により6次産業化が進んでいることから、産業間の交流も盛んになり、まちがにぎわっていると考えられます。

## 4 検証

- ・産業基盤の強化に向けて、企業の課題解決や経営の安定化を図るほか、新商品の開発、販路拡大、ブランド化を支援するとともに、企業の流出防止策を講じる必要があります。
- ・個店の経営強化や個性化、魅力化を図るため、商品の販路だけでなく、体験などの商品以外の価値を提供できる店舗づくりや、その魅力を正確に情報発信する必要があります。
- ・産業の発展を持続させるために、「平塚市産業活性化会議」や「プロジェクトチーム」などの場を活用し、積み重ねてきた技術など本市の特性を生かした、実効性の高い支援策を検討・実施する必要があります。

## 基本目標4「地力を伸ばす産業」

### 達成方針4-②<熟成>

市民の豊かな暮らしに貢献できる産業として成熟させる

#### 基本施策

1. 市民が身近に感じられ、生活に密着した産業を展開する
2. まちのにぎわいづくりに結びつく産業を展開する

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・市民(消費者)と供給者とのコミュニケーションが深まり、信頼関係が築かれている
- ・産業が身近に感じられるような、ふれあいの機会がある
- ・地産地消が進み、地元の産物にみんなが誇りをもっている
- ・事業者の社会的責任を果たした経営が行われている
- ・産業情報が積極的に発信され、情報の入手が容易になっている
- ・地域のニーズに合った産業活動が行われている

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
農産物直売所販売額(年間)【千円】 (担当課資料)	—	570,000	690,000	720,000	655,000
『優良な農地が多く、農家と都市住民の交流が進むなど、農業が充実している』と感じている市民の割合【再掲】【%】(市民意識調査)	11.9	18.6	11.4	12.7	25.0
『消費者保護や消費生活についての学習の体制が充実している』と感じている市民の割合【%】(市民意識調査)	7.0	9.7	4.9	5.5	14.0
『マリンレジャー・スポーツと一体となるなど、漁業が充実している』と感じている市民の割合【再掲】【%】(市民意識調査)	10.5	13.8	7.4	9.4	20.0
『平塚市内で観光が充実している』と感じている市民の割合【%】(市民意識調査)	6.5	5.9	6.2	6.2	15.0
学校給食で使用している地場産野菜などの種類【種類】(担当課資料)	23	24	27	22	25

平均達成率:69%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取り組み実績
地場産業振興事業	緑化まつり、七夕まつり、花巻まつり特産品フェアや商業施設での展示即売会など、市内外のイベントに積極的に参加したほか、観光協会等と協力して、市民プラザ内に名産品等販売所を開設するなどにより、名産品・特産品の普及・販売促進を実施しました。
農業理解促進事業	生産農家等との協働により、農業体験や収穫祭、即売会、花育イベント等、生産者と消費者が直接ふれあう機会を創出し、東海大学との連携で生まれた平塚産農産物PRキャラクター「ベジ太」を活用して農業理解を促進しました。また、ふれあい給食の実施により地産地消を促進しました。
ひらつか花アグリ推進事業 (花と緑のふれあい拠点整備事業)	神奈川県やJA、関係地域団体との調整を進め、ひらつか花アグリ施設のオープンに寄与しました。その後、連携事業として「花菜ガーデン」「あさつゆ広場」「湘南いちご狩りセンター」「金田大型市民農園マイ菜ファーム」と共に収穫祭、いちごフェアなどのイベントを開催しました。
市民農園整備支援事業	市民農園の開設に向け、農地地権者へPRを行い、意向がある農地の事前調査を実施してきました。現在、23箇所・1,208区画(うち1箇所・178区画は、花アグリ内の金田市民農園マイ菜ファーム)が開設されています。
魚食普及促進事業	魚調理教室や朝市の開催のほか、JA あつぎの直販所やあさつゆ広場での平塚産水産物の販売を支援し、新たな販路拡大につながりました。また、地どれ魚直売会での水産物の販売を支援するとともに、学校給食にも地魚を提供しました。
都市漁村交流支援事業	小学生による体験乗船、子ども環境教室や、船釣り体験を含んだ婚活ツアーなどを支援し、漁港施設の利用促進や海洋レクリエーションの活性化に取り組みました。

## 3 成果の考察

市民農園の整備が着実に進んだことや、農業者と協働して行う農業体験、直売会などの各種イベントを通じて生産者と消費者が直接ふれあう機会を数多く創出したことから、農業が市民の身近に感じられるようになり、「優良な農地が多く、農家と都市住民の交流が進むなど、農業が充実している」と感じている市民の割合が上昇し、農産物直売所販売額については、目標値を上回ることとなりました。また、漁業関連施策の成果に対しては、目標値までは届かないまでも横ばい傾向であることから、一定の成果は得られたものと考えられます。

これらのことから、「産業が身近に感じられるような、ふれあいの機会があるまち」、「地産地消が進み、地元の産物にみんなが誇りをもっているまち」になっていると考えられます。

## 4 検証

- ・新たな拠点の創出や既存拠点の魅力向上を図り、まちのにぎわいづくりに結びつく産業を展開する必要があります。
- ・漁業を核とした多様な産業間連携を図るとともに、周辺地域への回遊性を高める必要があります。
- ・にぎわいを創出するために、市民に対して積極的な情報発信を行う必要があります。
- ・東日本大震災以降の放射性物質への不安、インターネットを利用した取引の簡易化など、生活を取り巻く環境の変化に対応した消費者啓発活動や消費者教育の推進が必要です。

## 基本目標4「地力を伸ばす産業」

### 達成方針4-③<新しい芽>

リーダー、後継者が育ち活躍できる環境をつくる

#### 基本施策

1. 新しい産業が芽生え、育つ環境づくりを進める
2. 新しい価値観や豊富な行動力をもった担い手が、継続的に育成されるしくみをつくる
3. 就業の場における処遇の公正化及び男女雇用機会の均等化並びに雇用の安定拡大を図る

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・多様な担い手が活躍している
- ・退職者などがもつ知識やノウハウが受け継がれている
- ・誰もがいきいきと働いている
- ・ベンチャー企業や新規参入企業が生まれ育っている

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
労働力人口に占める完全失業者数の割合【%】 (平塚市統計書から算出)	6.2	6.2	7.1	7.1	4.0
『男女共同参画や人権擁護など、自由で平等な地域社会となっている』と感じている市民の割合【再掲】【%】(市民意識調査)	13.7	12.9	10.5	9.7	18.0
新規認定農業者数(累計)【経営体】 (担当課資料)	—	0	1	1	25
起業家育成のためのセミナーへの参加者数 (年間)【人】(担当課資料)	40	42	34	34	45

平均達成率:45%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取り組み実績
起業家支援事業	創業塾や学生向けのトークライブなど創業するための環境醸成の場を設けるとともに、事業を具体化するためのブラッシュアップセミナー、ビジネスコンペティションを開催しました。また、起業後の支援として専門家を派遣するなどのフォローアップを実施しました。
就労支援事業	国、県の関係機関等と連携して就労支援セミナーを実施するとともに、就労相談事業の充実を図りました。また、求職者の就労支援や、企業との効率的なマッチングに向けた就職面接会を実施しました。
サポートファーマー育成事業	市民を対象に農業技術研修等を実施し、JA湘南サポートバンクへの登録者数が累計55名となりました。
漁業後継者育成事業	小・中学生の市場見学会や体験漁業等を通じて、海や漁業への関心を高めるとともに、若手漁業者には、県漁連等による研修への積極的な参加を促しました。
担い手総合対策事業	地域産業の発展に寄与する市内農作業受託組織の強化・育成のため、農業機械・資材購入費の一部を補助するとともに、湘南地域担い手育成総合支援協議会の活動を支援しました。また、「人・農地プラン」について、1地区策定することができました。

## 3 成果の考察

担い手不足といわれる農業分野において、JA湘南、大磯町、二宮町、県など各機関と広域的に連携した「農業相談ワンストップ窓口」を通じて、農業者への支援を行った結果、新規認定農業者数(累計)が増加しました。

また、サポートファーマー育成事業によりJA湘南サポートバンクへの登録者が増えたことや漁業後継者育成事業による若手漁業の育成を行うなど新たな担い手の育成ができたことから、多様な担い手が活躍しているまちなっていると考えられます。

## 4 検証

- ・次世代の産業の担い手となる起業家の育成や、新産業の創出を促進するため、関係機関と連携して各種事業の実現や、事業拡大のための支援充実を図る必要があります。
- ・就労の一層の促進と安定のため、魅力ある就労支援策の展開と、周知を充実させる必要があります。
- ・農業、漁業の持続した発展に向けて、新規就業者の確保に取り組むことが必要です。

## 基本目標5「安全・快適なまち」

### 達成方針5-①<安全>

#### 災害に強い安全なまちづくりを進める

##### 基本施策

1. 安全に対する意識を高める
2. 被害を最小限に抑える防災の環境を充実する
3. 迅速かつ的確な消防・水防と救急・救助、救援の体制を充実する

##### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・災害への備え、災害時の正しい行動のしかたが市民に浸透している
- ・迅速に対応できる危機管理の体制が整っている
- ・災害時の避難や救援の場となる拠点が整備されている
- ・消防・救急活動が迅速かつ的確に行われている
- ・安心して暮らせる安全なまちの環境が整っている

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23年度	H25年度	H26年度	H28年度
<b>火災発生件数（年間）【件】</b> (担当課資料)	108	80	80	82	75
<b>普通救命講習修了者数</b> (延べ人数)【人】(担当課資料)	13,150	28,539	35,616	38,329	33,150
<b>『日常生活の安全が守られている』と感じ ている市民の割合【再掲】【%】</b> (市民意識調査)	13.0	19.1	14.6	14.9	30.0
<b>防災訓練実施団体数【団体】</b> (担当課資料)	265	176	233	308	300
<b>犯罪発生件数（年間）【再掲】【件】</b> (行政概要)	4,833	3,447	3,063	2,896	3,300
<b>交通事故発生件数（年間）【再掲】【件】</b> (行政概要)	2,244	1,746	1,504	1,428	1,640

平均達成率:108%



## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取組み実績
AEDの整備及び応急手当の普及啓発事業	主な公共施設に配備された自動体外式除細動器(AED)の設置場所等の広報を行うとともに、講習会やイベントを通じ、市民が適切に使用できるよう伝えることができました。普通救命講習会、応急手当講習会及びイベント等を通して、多くの市民に対し、応急手当の普及・啓発を図ることができました。
住宅密集地等消火体制強化事業	住宅密集地や道路狭隘地区に、地域住民による火災に対する初動体制を確立、及び消火体制の強化を目的として、平成22年度に要綱を作成し、消火用資機材等を5地区に設置した。また、平成23年度から平成26年度まで各年度2地区ずつに設置をし、取扱い訓練を実施してきました。
交通安全啓発推進事業	平塚市交通安全対策協議会による交通安全啓発活動、及び交通安全指導員による保育園や学校等における交通安全教室の継続的な開催により、市民に交通安全意識の啓発を図りました。なお、交通安全教室では、毎年年間200回程度開催し、約2万人に受講していただきました。
建物の耐震性向上促進事業	広報紙やイベント等で事業のPRを行うとともに、木造住宅耐震化の地区説明会や耐震相談会を行い、平成19年度～平成26年度の8年間で、耐震診断336件(内3件はマンション耐震診断)、耐震改修148件の補助実績となりました。
防犯対策推進事業	平塚市防犯協会や平塚警察署などと連携した防犯キャンペーンやパトロールなどの地域安全運動を実施し、平成19年度から26年度までの市内における刑法犯認知件数は2,464件減少しました。
防災訓練強化事業	平塚市総合防災訓練では、各関係機関の連携による災害対応や自主防災組織の共助による避難所体育館までの避難誘導體制を検証しました。津波避難訓練では、海岸地区地域住民が最寄りの津波避難ビルまで避難する訓練を実施しました。自治会、自主防災組織役員等を対象に実践的な発災直後の行動訓練J-DAGを実施した他、自主防災訓練を支援し、地域の防災力の強化と防災意識の高揚を図りました。帰宅困難者対策訓練では、関係機関の情報伝達、連携強化を図ることができました。

## 3 成果の考察

河川の高潮堤防整備や橋りょうの耐震補強工事などの災害への対応のほか、住宅密集地等の消火体制の強化や消防車両の更新などの火災への対応を行ったことにより、微増ではあるが「日常生活の安全が守られている」と感じている市民の割合の増加が見られ、安心して暮らせる安全なまちの環境が向上したと考えられます。

また、火災予防の啓発や地域安全運動、普通救命講習会や交通安全教室の開催、さらには各種防災訓練の実施などにより、火災や犯罪、交通事故の発生件数が減少したほか、普通救命講習会参加者数、防災訓練実施団体数の増加が見られ、市民の安全に対する意識向上、及び災害時の正しい行動の仕方が浸透していると考えられます。

## 4 検証

- ・大規模地震や風水害等の多様化する自然災害に対する備えを充実させ、災害に強いまちづくりを進める必要があります。
- ・高齢化の進展に伴い、災害時における配慮が必要な高齢者が増加していることから、消防力の強化や、地域ぐるみで支え合う防火意識の高揚が必要です。
- ・多様化する災害や要請件数が年々増加傾向にある救急需要に対応できるよう、災害時の拠点となる消防庁舎の補強や救急車等の資機材の整備など、防災拠点の整備が必要です。
- ・普通救命や応急手当などの各種講習会を開催し、迅速な応急処置を多くの市民に浸透させることが必要です。
- ・安心・安全なまちづくりに向けて、事故発生割合の高い高齢者の増加に対する対応や、自転車の事故防止対策を行うことが必要です。

## 基本目標5「安全・快適なまち」

### 達成方針5-②〈まちの顔〉

活気ある魅力的な中心市街地をつくる

#### 基本施策

1. 人々が集まり、にぎわいと活気にあふれる街づくりを進める
2. 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する
3. 誰もが安心して、安全、快適に過ごせる環境づくりを進める

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・商店街が魅力にあふれ、人々が集まりにぎわっている
- ・高齢者から子どもまで、多くの人々が街へ出かけて楽しく過ごしている
- ・誰もが憩えるような、良好な駅周辺の環境が整っている
- ・市民と協働で防犯対策に努め、誰もが安心して歩ける街になっている

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23年度	H25年度	H26年度	H28年度
<b>中心市街地年間商品販売数【百万円】</b> (平塚市の商業—商業統計調査結果報告)	212,214	228,764	228,764	228,764	229,000
<b>「中心市街地を快適に歩ける」と感じている市民の割合【%】</b> (産業活性化ビジョン策定のための市民意識調査)	4.6	15.5	5.4	5.4	20.0
<b>七夕まつり市民協力・子ども飾り参加団体数【団体】</b> (七夕まつり実績報告)	45	51	51	52	55
<b>七夕まつり市民自主企画事業数【事業】</b> (七夕まつり実績報告)	10	11	13	11	14
<b>中心商店街歩行者通行量(平日：1日あたり)【人】</b> (平塚市商業のあらし)	171,063	235,781	235,781	188,938	236,000
<b>中心商店街歩行者通行量(休日：1日あたり)【人】</b> (平塚市商業のあらし)	187,452	200,712	200,712	151,147	201,000
<b>放置自転車数(中心市街地、1日あたり)【台】</b> (担当課資料)	1,748	1,415	622	459	50
<b>紅谷町まちかど広場利用イベント数(年間)【件】</b> (担当課資料)	48	65	59	66	90

平均達成率:80%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取組み実績
放置自転車等対策事業 (旧：駐輪場整備促進事業)	放置禁止区域においては、放置自転車等へ警告・指導・撤去を毎日実施しました。 平成 21 年度に策定した「平塚駅周辺の駐輪対策について」に基づき、平成 22 年度に駅西口第 1 駐輪場を、平成 23 年度からは駅西口第 2 駐輪場等を整備し、利用促進を図りながら、平成 25、26 年度に放置禁止区域を拡大しました。また、平成 24 年度から民間事業者駐輪場整備費を補助しました。
商店街にぎわい創出事業	中心商店街で開催される各種イベントや販売促進活動を支援し、にぎわいアップと市民とのふれあいを促進しました。さらに、平塚市中心市街地活性化調整協議会の活動を支援し、空き店舗への出店を促進しました。(主な事業:「商店街アドバイザー派遣」、「中心街活性化事業」、「商店街にぎわい創出事業」など)
新しい七夕まつり創出事業	実行委員会主催へと変更し、市民協力型を含めた七夕飾りを増加させること、商工会議所青年部と青年会議所を中心とするクリーンボランティア、イベントボランティア、七夕飾りボランティア、観光案内ボランティアの拡充を行いました。
北口駅前広場バリアフリー化事業	平成20～21年度にかけて、JR平塚駅北口駅前広場のバリアフリー化事業として、3基のエレベータの新規設置とバス停留所の駅前広場外周への再配置を実施しました。これにより、高齢者や身体の不自由な方であってもより安全に、便利に駅前広場を利用できるようになりました。
駅(西口)周辺魅力アップ事業	JR平塚駅西口にかかる跨線橋へのアクセスに関し、バリアフリー化を実現するため、平成24年度に西口北側に、平成25年度には西口南側にそれぞれエレベータを設置しました。
見附台周辺地区整備事業 (旧：見附台周辺地区土地利用基本計画策定事業)	見附台周辺地区土地利用基本構想に基づき、見附台周辺地区まちづくり委員会を主体に検討を進め、平成 20 年 3 月に見附台周辺地区土地利用基本計画、平成24年10月に見附台周辺地区土地利用計画―整備方針―を策定しました。また、翌平成25年度には PFI 導入可能性調査を行い、平塚市 PFI 導入検討委員会での意見を受け、見附台周辺地区庁内研究会において事業の見直しについて検討し、事業の今後の方向性を取りまとめました。

## 3 成果の考察

中心市街地においては、目標値には届いていないものの、中心商店街の年間商品販売数や、紅谷町まちかど広場イベント数の増加が見られるほか、駐輪場の整備等による放置自転車数の大幅な減少、「中心市街地を快適に歩ける」と感じている市民の割合の増加など、活気ある魅力的な中心市街地に向けた改善が図られていると考えられます。

なお、七夕まつりにおいても、実行委員会主催としたことで、市民協力・子ども飾り参加団体数の増加や、市民自主企画事業数の増加などが見られ、人々が集まり、にぎわいと活気にあふれるまちづくりが進められていると考えられます。

また、平塚駅や駅前広場等のバリアフリー化により、高齢者、障がい者等の移動や、施設の利便性及び安全性向上の促進が図られ、誰もが安心して利用できる環境整備が進みました。

## 4 検証

- ・中心商店街の歩行者通行量が年々減少していることから、商店街の活性化を図り、人々が集まり、にぎわいと活気にあふれる街づくりを進める必要があります。
- ・周辺への出店が予定されている大型商業施設により、中心市街地への影響が考えられるため、中心市街地活性化調整協議会が行う活性化の取り組みを支援し、中心商店街の持続的な活性化の推進が必要となります。
- ・平塚駅北口改札階から北口駅前広場のバリアフリー化や、バリアフリー基本構想における「重点整備地区」におけるバリアフリー化など、誰もが安心して、安全、快適に過ごせる環境づくりを進める必要があります。

## 基本目標5「安全・快適なまち」

### 達成方針5-③<利便性>

誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める

#### 基本施策

1. 安全で快適に利用できる公共施設の充実を図る
2. 市民ニーズに合った公共施設の適正な管理と運営を進める
3. まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める

#### めざすまちの姿や暮らしの状態

- ・誰もが快適に公共施設を利用し、いきいきと暮らしている
- ・誰もが快適に公共交通機関を利用し、スムーズに往き来している

### 1 成果指標の達成状況

	総合計画 策定時	達成値			目標値
		H23 年度	H25 年度	H26 年度	H28 年度
公民館利用者数（中央公民館及び25地区公民館）（年間）【人】 （行政概要）	1,266,980	1,138,562	1,103,188	1,032,592	1,602,000
青少年会館利用者数（年間）【人】 （行政概要）	85,342	74,243	70,775	67,339	90,000
市民センター利用者数（年間）【人】 （行政概要）	177,980	196,791	181,725	166,271	275,000
博物館利用者数（年間） 【再掲】【人】（平塚市統計書）	74,898	51,627	72,310	57,103	86,000
管理・運営を、行政から事業者、市民活動団体などへ変更した公共施設数（延べ施設数）【施設】（担当課資料）	10	42	41	44	60
『買い物や通勤・通学など市内外への移動がしやすい環境が整っている』と感じている市民の割合【再掲】 【%】（市民意識調査）	28.8	26.7	20.0	19.3	40.0
美術館利用者数【観覧者数】（年間） 【再掲】【人】（平塚市統計書）	59,080	95,049	110,853	90,906	100,000
平塚駅での電車乗車人数（1日あたり）【人】（平塚市統計書）	58,200	59,955	60,643	61,486	60,000

平均達成率:79%

## 2 取り組んだ主な事業及び実績

事業名	取組み実績
ノンステップバス推進事業	国の補助に準じ、平成20年度から計42台のノンステップバス導入を補助しました。 (平成32年度までの目標導入率70%のうち、26%の達成)
バス利用促進事業	平成22年度にバスの位置情報を知らせる「バスロケーションシステム」の導入を補助しました。また、平成26年度の開発事業に伴い、店舗の庇を利用しベンチを設置した民地活用のバス停待合環境をバス事業者と連携して整備しました。その他、定時性・速達性向上のためのバス優先レーン、公共交通優先信号や、交通結節点の強化を図るサイクル&バスライドの整備手法等の検討をしました。
総合交通計画策定事業	総合交通計画策定のため、アンケート調査から着手し、基本理念や将来交通体系などの整理を行い、学識経験者、関係団体、公募市民などで構成した検討会議や庁内策定委員会等、さらにはパブリックコメントなどを経て、平成22年4月に平塚市総合交通計画を策定しました。
新庁舎建設事業	平成20年10月に「平塚市新庁舎建設基本構想」を策定し、基本理念を「自治の基本に立ったまちづくりの拠点＝新庁舎」とし、基本理念に基づき4つの基本方針を定めました。基本理念及び基本方針に基づき、平成21年4月に「平塚市新庁舎建設基本計画」を策定し、基本設計に反映させ、平成23年9月に平塚市庁舎・平塚税務署新築工事に着手しました。平成26年5月に1期工事が完成し、一部供用を開始しました。
地区公民館整備事業	生涯学習活動及び地域活動を推進するための拠点整備として、中原公民館及び大野公民館の新築工事を行いました。また、豊田公民館、横内公民館、八幡公民館、南原公民館、須賀公民館の耐震診断を実施しました。
市民病院整備事業	平成19年度から21年度にかけて、平塚市民病院将来構想と平塚市民病院整備事業基本計画書を策定し、平成21年度から24年度にかけて整備事業設計業務を実施しました。また、平成23年度からオイルタンク移設や仮設救急棟建設などの前段工事を実施し、平成25年度に新棟建築工事に着手しました。

## 3 成果の考察

市民センターや公民館など、各公共施設においては利用者数の減少が見られますが、新庁舎や市民病院の建て替えのほか、地区公民館の耐震診断や建替えなど、老朽化した公共施設への対応が順次進められており、安全で快適に利用できる公共施設の充実に向けた改善が図られています。

また、幹線道路や街路、橋りょうの整備のほか、バスロケーションシステムやノンステップバスの導入により、交通渋滞の緩和や住環境、利便性の向上が図られ、公共交通の利便性の向上が図られたと考えられますが、『買い物や通勤・通学など市内外への移動がしやすい環境が整っている』と感じている市民の割合が低調でありました。この理由の一つとして、ノンステップバス導入率がまだ低いことや、バス停待合環境の整備が全市域に至っていないこと、また定時性・速達性向上や交通結節点の強化等の具体的施策に取り組めていないことが考えられます。

## 4 検証

- ・生涯学習施設等、老朽化した公共施設の更新が課題となっていることから、耐震改修や建て替えについて、具体的な整備方針やスケジュール等を定め、安全で快適な公共施設の整備を図る必要があります。
- ・市民意識調査の結果からも、買い物や通勤・通学など市内外への移動がしやすい環境の更なる整備が求められているため、誰もが快適に移動できる環境づくりに向けた整備が必要です。
- ・公共施設の指定管理者制度等の更なる導入や、既導入施設については、各施設に応じた一層適正な管理運営や市民ニーズに沿ったサービスの向上を目指した取組みなど、公共施設の適正な管理と運営が必要です。